

みる かたる つくる

2017 VOL.44
(通巻106号)



ART NEWS
千葉県立美術館報

Art Collection+

追悼 深沢幸雄の歩み

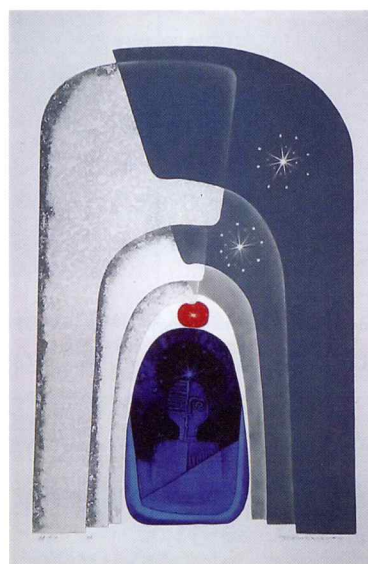


深沢幸雄《廃墟の貌》

深沢幸雄（1924～2017）は山梨県中巨摩郡平林村（現：南巨摩郡富士川町）出身の銅版画家で、作品は千葉縣市原市鶴舞に移った後に自宅兼アトリエで制作されました。幼・青年期を朝鮮総督府の官吏であった父親の任地で過ごし、油彩画、漢詩、陶芸に魅せられ、後の深沢の作品制作の原点となります。終戦後東京美術学校（現：東京芸術大学）工芸科彫金部を卒業し、東京都立川市立第一中学校、千葉県立市原高等学校などで美術教師に就くとともに油彩画の制作に取り組むも戦時中に負った右膝の損傷からくる激痛が再発し、油彩画の制作を断念し銅版画の制作を本格的に開始します。その後深沢の銅版画作品は、日本版画協会賞受賞、春陽会賞受賞、第2回フィレンツェ国際版画ビエンナーレでバンコ・デ・ローマ賞受賞など、国内外で

開催概要

会 期／ 平成29年10月28日(土)
～平成30年1月14日(日)
会 場／ 千葉県立美術館 第1、2展示室
開館時間／ 午前9時～午後4時30分
休 館 日／ 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)
年 末 年 始(12月28日～1月4日)
入 場 料／ 一般300円(240円)
高校・大学生150円(120円)
中学生以下・65歳以上・
障害者手帳持参者と介護者1名は無料
()は20名以上の団体料金



深沢幸雄《星の門》

高い評価を受けます。また、銅版画以外にもガラス絵、書、書入パステル画、陶芸など多彩な作品制作を試みています。創作活動の傍ら現福岡教育大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学などで後進の指導にもあたっています。

本展覧会では、本年1月2日に亡くなった深沢幸雄の業績を顕彰するとともに、その歩みを顧みることを目的とし、県立美術館収蔵作品から55点を精選し、銅版画作品制作の変遷を以下の3期に分けて展示します。
1期（1951～1962年頃）：情念の時代（モノクローム作品制作）、2期（1963～1979年頃）：再発見の時代（カラー作品制作）、3期（1980年以降）：挑戦の時代（メゾチントを中心とする円熟期の銅版画やガラス絵などの多芸作品制作）。

レポート

特別展「立体造形の現在*過去*未来 The フィギュア in チバ」 7月22日(土)～9月24日(日)

フィギュアとは、人や動物などの形をした人形を意味する言葉です。近年はコミックやアニメの登場人物を題材にしたものが人気となり、世界に誇る日本文化の一角を形成しています。

【現在】では、日本最大のフィギュアメーカー海洋堂の作品約3000点を展示。「シン・ゴジラ」などのヒット作による導入の後、海洋堂の歴史を帆船模型、ナウシカといった各時代の代表的な作品で構成し、そのあと「食玩」（しょくがん）と呼ばれる食品のオマケコーナーで、多種多様な動物や、テレビで親しんだ登場人物たちのフィギュアを多数展示しました。さらにBOME（ボーム）など著名なフィギュア原型制作者の作品を選抜展示しました。

このほか、大網白里市在住のハマハヤオの作品を紹介。ハマは精巧なフィギュア制作の元祖と称され、近年は木一吉としてチェーンソーによるウッドカービングに取り組んでおり、期間限定でその作品展や実演なども行いました。

【過去】では、千葉県で出土した土偶や埴輪、県の伝統的工芸品である「芝原人形」と、収集作家の工芸と彫刻作品を展示。2600年前頃の作とされる土偶は、フィギュアの原点であり、人とフィギュアとの関わりを考えさせられました。

彫刻の笠原鉄明《帰る日》は、人物の逞しい骨格表現に特徴が見られ、西洋の造型表現と、写真的な正確

さが好まれる日本のフィギュア作品との違いを鮮明に示していました。

【未来】では、「ホログラム」と呼ばれる立体映像によるヴァーチャルアーティストIA（イア）のライブパフォーマンスを再現。ワールドツアーで使用した映像は細部まで造り込まれ、その動きと歌声は見事な出来映えでした。

作中人物に扮することをコスチューム・プレイ、略して「コスプレ」と呼びます。これを人体によるフィギュア的表現として捉え、地元千葉で活動する「千葉ットマン」の衣装の一部と愛車「千葉ットボッド」を紹介。千葉ットマンはイギリスのBBCニュースなどでも紹介されています。

さらに、千葉市を舞台とするアニメキャラクター「新垣あやせ」などの等身大フィギュアや、「ワンダーショウケース」と呼ばれる若手作家を取り上げる企画で紹介された作家4人を選んで展示しました。

当館のこれまでの展示とは傾向を異にする展覧会でした。若い世代の来館促進を目標の一つとして展示構成したところ、SNSなどでの話題は総じて好評で、会場の様子や入館者数内訳からこの目標は達成できたように思います。

過去に開花し遺産として示される美術、多様な変化を示し発展する現代の美術。それらを同時に鑑賞できるのは、美術展覧会の面白さの一つかもしれません。

関連事業から

美術講演会 『海洋堂セムム、フィギュアの魅力を語る』

8月19日(土) 13:30～15:00

町の模型店から始まった海洋堂は、人気アニメの登場人物、食品のおまけ、カプセルトイなどあらゆるフィギュアの礎をつくってきました。フィギュア界のパイオニア、海洋堂社長（愛称はセムム）宮脇修一氏による講演会を開催しました。



ワークショップ 『フィギュアに好きな色を塗ろう』

8月5日(土)、26日(土) 10:30～／13:00～／15:00～

ティラノサウルスのプラモデルを組み立て、自分好みの着色をしてフィギュアを完成させる、ワークショップを開催しました。子どもから大人まで、参加者は年齢を問わず、誰もが夢中になって自分の世界に没頭していました。



特別展示 『木一吉 チェーンソーカービングの世界』

8月22日(火)～9月3日(日)

フィギュア原型師の草分け的存在であるハマハヤオ氏は、チェーンソーカービングのアーティスト木一吉としても活躍しています。この展覧会は、チェーンソーカーバーとしてのハマ氏のもう一つの素顔を、丸太から彫り出された41点の木彫作品を通して展望しました。



スペシャルイベント 『木一吉 チェーンソーカービングショー』

8月27日(日) 13:30～



屋外の芝生広場で、100人を超えるギャラリーを集めて「カービングショー」を開催しました。ハマ氏はチェーンソーを自在に操って丸太を彫り、30分ほどで鳥や動物など3体の小品を完成させ、できた作品はその場で希望する子どもたちにプレゼントされました。

10月～4月の Art Collection

当館では収蔵作品を“Art Collection (アート・コレクション)”の名称で、様々なテーマを設けて順次紹介しています。“Art Collection+”として、収蔵作品以外の作品も加えた展示も年に数回企画しています。いつ来館しても楽しめる展示を展開しています。

◆第1・2展示室 Art Collection+

追悼 深沢幸雄の歩み

10月28日(土)～1月14日(日)

今年1月に逝去された日本を代表する銅版画家深沢幸雄の業績を、当館収蔵作品のほか、市原市とご遺族から借用したガラス絵等や資料で紹介します。1期(1951～1962年頃)：情念の時代、2期(1963～1979年頃)：再発見の時代、3期(1980年以降)：挑戦の時代で構成します。

飽くなき表現の探求により独自に開拓した多彩な銅版画の技法を駆使して作品を生み出した深沢幸雄の歩みを振り返ります。



深沢幸雄《凍れる歩廊(ベーリング海峡)》

◆第3展示室 Art Collection

近代洋画の先駆者 浅井忠 5

—バルビゾン派とともに—

10月28日(土)～1月14日(日)

第3展示室では、近代洋画史において先駆的な役割を果たした浅井忠の洋画、日本画、書、陶芸などのコレクションを特別展および県展などの期間を除いて紹介しています。

今回は、浅井が影響を受けたミレーやデュプレなどバルビゾン派の風景画家たちの作品を浅井の作品とともに展示し、その空気感や光の処理など、それぞれの魅力を発見していただく機会とします。



ジュール・デュプレ《森のはずれ》

◆第8展示室 Art Collection

季節の彩り

10月28日(土)～1月14日(日)

四季の変化に恵まれた日本では、豊かな自然のなかでの季節の移ろいを人々は様々な方法で表現してきました。ここでは、「秋を粧う」「冬を愉しむ」と題するコーナーを設け、東山魁夷作《秋深》など、秋から冬へと季節の移ろいを感じさせる作品を当館収蔵作品の日本画、洋画、工芸、版画から紹介します。ゆったりとした空間の中で、技法や素材による四季の表現の違い、色彩の美しさや繊細さをご堪能ください。



東山魁夷《秋深》

◆第1・2展示室 Art Collection

コレクション名品展

1月20日(土)～4月15日(日)

◆第3展示室 Art Collection

近代洋画の先駆者 浅井忠 6 —その師と弟子たち—

1月20日(土)～4月15日(日)

◆第7展示室 Art Collection+

鑄造の新世界

現代作家西岡美千代と県美の収蔵作家たち

12月23日(土・祝)～3月4日(日)

◆第8展示室 Art Collection

北詰コレクション メタルアートの世界Ⅱ

1月20日(土)～4月15日(日)

これまでの Art Collection から

◆第1・2展示室 Art Collection+

金子周次版画展

—浪のひびきのひそまる間ゆ—

4月22日(土)～7月9日(日)

郷土、銚子の風景をこよなく愛し、全身全霊でひたすら木版画を制作した金子周次(1909～1977)の画業を銚子市所蔵の作品を中心に紹介しました。犬吠埼灯台や犬岩などの写真と見比べ、その描写力や彫り、刷りの高い技術に、多くの方が感動していました。

◆第3展示室 Art Collection

近代洋画の先駆者 浅井忠 4

—旅する画家—

4月22日(土)～7月9日(日)

浅井は生涯、旅をつづけた「旅する画家」といえます。《磐梯山の図》《小丹波村》《フォンテンブローの森》などの作品とともに、《筑波日記》《巴里日記》《塚本靖宛絵葉書》やスケッチブックなどの関係資料を展示し、旅の様子と作品の魅力を紹介しました。

◆第8展示室 Art Collection

みづゑの魅力

4月22日(土)～7月9日(日)

明治期に水彩画の普及に尽力した大下藤次郎から、不透明水彩を活用して新たな表現の可能性を追求した中西利雄、小堀進ら昭和期の作家まで、日本近代水彩画の歩みを当館収蔵の名品約40点により紹介しました。

実技講座

当館の活動の柱、「みる・かたる・つくる」のうち、「つくる」活動の一つとして、毎年県内の作家を講師に招き、実技講座を開催しています。今年度は予定している6講座のうち、現在まで2講座を実施しました。平成30年2～3月には参加者の作品を紹介する「美術館とつくろう展」を開催します。

【陶芸基礎】 5・6月

茶碗を紐づくり、マグカップを板づくりで制作しました。花器は、あらかじめデザインを考えてきたものをもとに、思い思いの作品づくりに取り組みました。釉薬は、個々の作品に合ったものを10種類の中から選択し、作品によっては霧吹きを使うなど、かける方法を工夫して釉薬がけを行いました。鈴木久美子先生のきめ細かなご指導のおかげで、陶芸が初めての方も満足のいく作品に仕上げることができました。



【陶芸中級】 7月

箸置きは、石膏を流し込んで箸置き型の型をつくり、その型を使って一人数個ずつ作りました。花器などは、かなり大きな作品づくりにチャレンジしている方もいました。化粧土を使って線象嵌を施すことも行いました。素焼き後、マスキングテープで模様をつくったり、陶芸用下絵の具で着色したりしました。講評会では、鈴木久美子先生から一人一人の作品についてお話をいただきました。



これからの実技講座

【金工(鍛金)】

- ◇11月14日～12月5日(全7回)
- ◇講師：平山記通先生 ◇参加費 14,000円
- ◇銅板の鍛金で初心者にはカップ、経験者は好みの器などを作ります。鍛金の技法を身につけ、金工の楽しさに触れる講座です。

【ホリデーアート・蜜蝋画の展開】

- ◇1月20・21日(全2回)
- ◇講師：上田靖之先生 ◇参加費 5,000円
- ◇蜜蝋画の経験者の方が主な対象です。蜜蝋画の特性を生かし、自分らしい作品づくりを意識して制作に臨む講座です。

【ホリデーアート・はじめての蜜蝋画】

- ◇1月13日・14日(全2回)
- ◇講師：上田靖之先生 ◇参加費 5,000円
- ◇蜜蝋画を初めて学ぶ方が主な対象です。蜜蝋画のプロセスを学び、自由な発想を生かして制作する楽しさを味わいます。

【篆刻 ～オリジナルの雅印をつくろう～】

- ◇2月2日～2月23日(全4回)
- ◇講師：那須大卿先生 ◇参加費 9,000円
- ◇篆刻の歴史を学ぶとともに、姓名等から文字を選び、1文字のものを二つ、2文字のものを二つ計四つの雅印を作ります。

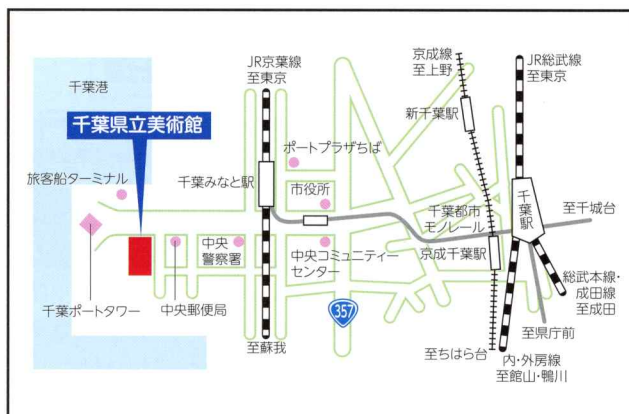
*詳しくはホームページを御覧になるか普及課(043-242-8311)までお問い合わせください。

今年度のワークショップから

展覧会に関連し「えのぐで発見! すてき色」ワークショップを6月17日(土)に開催しました。透明水彩絵の具で、滲みや擦れ、吹き流しなど偶然にできる多彩な画面構成をし、表現方法を楽しみました。カンパジと額飾に仕立てたすてきな色の作品を前に、各自が工夫した点や好きな部分などを発表しました。



今年度、このあとの展覧会関連ワークショップは、12月9日に、「追悼 深沢幸雄の歩み」展に合せ、小学3～6年生を対象に版画を制作する「くるくるパスタマシン版画」を予定しています。



千葉県立美術館 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880

千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.44 (通巻106号)
2017年10月25日発行